

4～6月 訪問支援等の状況

当校のセンター的機能について今年度の状況をお知らせいたします。2学期以降の参考になれば幸いです。今後とも本校の相談支援活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

【① 教育相談】

電話相談の件数は、電話での問い合わせから訪問支援等に至ったケースは訪問支援に数えています。また、学校見学は、6月のオープンスクールにて参加・見学したケースを含んでいます。

以前から就学関係者以外の学校見学希望が複数ありました。そのため今年度から、オープンスクールとして就学前の本人・保護者、小5・6年生の本人・保護者に加え、福祉等の関係者用の日を設定しました。その結果、関係者向けの日には9名の方にご来校いただきました。次年度

も同様の形で見学できる日を設定する予定です。また、オープンスク

ール以外の日程でも希望があれば学校見学を調整して実施することも可能です。ご希望がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

① 教育相談	電話相談	0件
	来校相談	0件
	学校見学	2件
	体験学習	0件
② 訪問支援	小学校	18件
	中学校	4件
	幼稚園・保育所	0件
	高等学校	4件
③外部専門家派遣		10回
④研修支援		3回

(令和7年度4月～6月)

説明会



【② 訪問支援】

火・木曜の週2回を訪問支援の対応日に設定し、午前・午後各2ケースを上限にお受けしています。そのため、R5年度以降は、5～6月は、ほぼ予約が埋まる状況です。

また、今年度は、約4割が通常の学級に在籍する児童生徒に関する相談でした。各校でのケース会議を実施後、福祉関係者等の要望を受けて訪問支援を調整する事例が多いのが、今年度の特徴です。「このくらいで訪問支援を依頼していいの?」と遠慮している事例も少なくないようです。2学期は次年度入学を検討する方の体験学習があります。しかし、今年度は例年よりも午前中の予約がとりやすくなる見込みです。気になる事例がありましたら、まずはメールや電話でご連絡いただければ幸いです。

《こんな相談がありました》

質問 小学校高学年通常学級在籍。授業中、落ち着きがない。授業中頻繁に教師に話しかけたり、椅子を動かしたりしている。忘れ物も多い。

回答 観察した時間では、大声で教師に話しかけることが何度ありましたが、授業者が上手に発言を受け止めて流すことができている、会話がほぼ1往復で終了していました。また、授業者が小さめの声で返答することで、速やかに落ち着いた状況に戻れています（授業者曰く、無意識に行っていた対応だったとのこと）。忘れ物の対応（許可を得てから取りに行く等）、自身の不注意・衝動性への対応方法も身に付けつつあり、今後も自分自身の「トリセツ」を築けていけると良いと思います。

【③ 外部専門家活用】

上記の②訪問支援の件数のうち、外部専門家を帯同したケースをカウントしています。今年度は、校内研修会と連動して観察・助言を行うケースもありました。



《こんな相談がありました》

質問 小学校低学年特別支援学級在籍。巡回相談で側音化構音（呼気が横から漏れる）の指摘有。どのように対応すればよい？保護者も心配している。

当日の様子 ST（言語聴覚士）と訪問支援を行い、構音検査等の観察を行った後、担任・保護者と面談を行いました。「ひずみ」はあるものの、比較的軽度でした。その一方、早口や口形の小ささから、発音の不明瞭さが見られました。

発音の訓練は、ストレスが高くなることから、家庭での訓練はおすすめしないことをSTから伝えました。その上で、周囲が口形に気を付けてゆっくり話しかけてモデルを示すことの大切さについて確認しました。

【④ 研修支援】

6月に3件の研修講師を担当しました。また、夏季休業中に5件の研修講師を担当する予定です。そのうち、3件が校内の学習会への参加です。また、以前は講義形式が中心でしたが、徐々に事例検討+助言の形式が増えています。今後も、参加者のニーズにできるだけ応えていきたいと考えています。

《研修テーマの一例》

- ・どの子どもともに生き、ともに育つ
- ・食と姿勢の関連について
- ・通常学級での、困り感をもつ子どもの支援方法

※なお、この「地域支援だより」は、今後はホームページの掲載を主軸に情報発信いたします。これからも変わらぬご理解・ご協力をお願いいたします。

山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

ホームページ：<https://www.wakafuji.kai.ed.jp/>

TEL：0556-27-0067

メール：michi-ko@kai.ed.jp（保坂直通）

地域支援担当：保坂美智子 上田知己 山本千峰 佐藤実

